

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4270500830
法人名	有限会社 上野企画
事業所名	グループホーム ねむの木
訪問調査日	平成 20 年 8 月 29 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 20 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270500830
法人名	有限会社 上野企画
事業所名	グループホームねむの木
所在地 (電話番号)	長崎県大村市黒丸町1471-1 (電 話) 0957-55-8605

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成20年8月29日	評価確定日	平成20年10月20日

## 【情報提供票より】(平成 20年 7月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 6人, 非常勤 5人, 常勤換算	9人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <del>(単独)</del>	<del>(新築)</del> 改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	16,500 円
敷 金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(平成 20年 7月 1現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	4 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.2 歳	最低 70 歳	最高 94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	牧山病院、共立病院、俣野歯科、長津眼科
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

日あたりのよい広い庭があり草花に囲まれ、四季折々の自然に触れながらゆったりとした暮らしを営んでいる。「今、この瞬間を大切にしたい介護をします」という理念のもと、利用者のその日、その時の思いなどを大切にして、支援に取り組んでいる。職員の研修参加等職員育成に積極的に取り組んでおり、管理者と職員が一丸となって、家庭的な雰囲気の中で利用者本位のケアに、楽しく生き活きと取り組んでいる。地域との交流も盛んで、近隣の保育所園児の訪問、絵画やフラダンスのボランティアを受け入れたり、ホームの行事や運営推進会議、避難訓練などにも家族や地域の人々が多く参加しており、日ごろから理解と協力が得られている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の課題に対する改善に向けて全職員で取り組むだけでなく、自己評価項目を1日1項目掲げ、その日のリーダーを中心に日々、自分たちの介護を評価し、振り返りや見直しをして、職員全員で再確認しながら取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、毎日1項目ずつ行っている振り返りとともに、全職員で日々のケアの中での気づきや意見を出し合いながら取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2月と7月にホームの行事の日に合わせて開催し、行政、自治会、老人会、民生委員、消防団OB、家族が参加している。会議では、ホームの現状や活動報告、行事への参加依頼など話し合い、地域の理解と協力を得よう取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日ごろより、家族に対して「ねむの木便り」や家族の訪問時を利用し、現状報告や情報提供を行い、気軽に意見や要望を出せるように配慮している。家族からの意見や要望は、苦情処理簿に記録し、全職員で速やかに対応し、運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣のコミュニティセンターへ出かけたり、ホームの行事や避難訓練に地域の方に参加してもらったりと、交流が盛んである。近隣の保育所園児の訪問や絵画やフラダンスなどボランティアの受入れ、デイサービスなど、日ごろから交流の機会も多く、理解や協力が得られている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その日その時の利用者の思いをしっかり受け止めることを大切にしたいという思いから、「今、この瞬間を大切にしたい」という理念を作り上げている。管理者や職員は、理念のもと、地域との関わりを大切に、家庭的な雰囲気の中で入居者本位の安心した暮らしを支えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングの際に管理者と職員で理念を唱和している。「感じる介護、考える介護」を今年の目標に掲げ、基本理念とともに、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くのコミュニティーセンターへ出かけたり、地域の方にホームの行事や避難訓練に参加してもらったりと、地域の人々との交流が盛んである。近隣の保育園児の訪問や絵画、フラダンスなどボランティアの受入れ、デイサービスなど、日頃から交流の機会が多く、理解や協力が得られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎日自己評価項目を1項目掲げ、リーダーを中心に自分達の介護を評価し、日々振り返りや見直しをして、職員全員で再確認している。今回の自己評価も気づきや意見を出し合い、職員全員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、行政、自治会、老人会、民生委員、消防団OB、家族が参加している。会議では、事業所から現状と活動報告、行事への参加依頼などを行い、参加者と意見交換を行っており、地域の協力や理解を深めるよう取り組んでいる。		

長崎県 グループホームねむの木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回の定期的な介護相談員の訪問や運営推進会議など、市担当者との密な関係づくりに努め、助言を得たり、情報収集したりと、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日々の暮らしの様子は、家族の面会時や、毎月発行している「ねむの木便り」に個別の近況報告を添えて伝えている。また、家族会は食事会を兼ねて開催し、利用者、家族、職員全員で和やかな雰囲気の中で開催されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と管理者や職員との信頼関係ができており、いつでも気軽に要望や意見を伝えてもらっている。家族からの意見や課題については、十分検討し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や家族にとってなじみの職員が、継続的に支援できる体制となっている。職員の数を多く配置し、交替の時間帯の調整や人選など、最善であるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修などの外部研修は、職員の希望があればいつでも自由に参加できるよう積極的に取り組んでいる。職員が参加した研修の内容は、ミーティングや勉強会で報告する機会を作り、全ての職員に周知している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修や地元のグループホームとの相互評価、勉強会などで交流を図っている。ネットワークを活かした情報交換や、ホームの行事などに相互訪問をする等の活動を通して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスの利用者が入居する場合もあるが、入居受入れの際は、利用者や家族と十分に話し合いながら、共同生活になじめるかどうか利用者の状況確認を行い、検討している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者ができること、したいことを選んでもらい、職員はやさしく励ましなが、一緒に楽しんでもらえるよう場面作りに取り組んでいる。訪問調査当日の食事場面でも、手の動きにくい利用者にはスプーンを使ってもらい、出来る限り自分自身で食事が楽しめるよう見守りながら支援している様子が窺えた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念のとおり、利用者の今この瞬間をかけがえのない大切なものと認識して、利用者のペースや思いを把握し、大事にして支援している。仏壇へご飯やお花を供えたり、晩酌をしたりと、把握した利用者それぞれの希望に対応し、臨機応変に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族がホームを訪問する機会も多く、日頃の関わりの中で要望や意見を聞き、介護計画に反映させている。また、職員のそれぞれの気づきなどを反映した具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画に対する評価を行い、見直しをしている。担当職員だけでなく、家族や他の職員とも話し合い、利用者の状態変化に応じて随時見直しを行っている。		

長崎県 グループホームねむの木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望や状況に応じて柔軟に支援できるようにしている。また、地域の人がデイサービスを利用できるようにしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望に合わせてかかりつけ医を決めている。また、毎週協力医の訪問診療があり、利用者の健康管理に努めている。看護師の配置があるため、利用者の心身の変化や急変時の対応など、いつでも職員へのアドバイスができるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時から重度化や終末期について家族と話し合いを行い、方針について共有している。これまでに看取りを経験したことがあり、家族等の希望に合わせて、納得のいく対応に努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に利用者の思いを大事にして、日々の言葉づかい、トイレ誘導などの声かけに配慮している。トイレや入浴は同性介護を心がけ職員の配置を考え、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴、外出など日常の過ごし方は、利用者になるべく希望に合わせて選んでもらえるよう場面づくりを行っている。晩酌を楽しんだり、外庭を眺めながらゆっくりと入浴したり、その日その時々々の希望やその人のペースを大切にして、柔軟に支援している。		

長崎県 グループホームねむの木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は、職員も利用者と同じテーブルを囲んでおり、会話も弾み、家庭的な雰囲気が感じられる。食材の買い物や食事の準備なども利用者と職員と一緒に楽しみながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回程度、利用者の体調や希望に合わせて時間帯を決め、同性の職員が入浴支援をしている。庭の季節の草花を眺めながら、ゆったりと入浴を楽しめるよう配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりに合った楽しみや役割を見つけて、得意分野で力を発揮してもらえるように支援している。レクリエーション参加、食事の準備、廊下そうじ、洗濯物たたみなど本人と相談しながら、役割や楽しみを持ってもらえるよう取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は、事業所敷地内の庭で草花摘み、野菜や果物の収穫をしたり、ベランダで食事やお茶を飲んだりして楽しんでいる。また、四季折々の花見や外食、買い物に出かけるなど外出を楽しめるよう、機会づくりに努めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関や居室などに鍵をかけておらず、いつでも自由に入出りできるようになっている。玄関にはチャイムを設置し、利用者の入出りを常に把握できるようにしており、安全な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難、救出訓練を定期的の実施している。訓練には、地域の人々や家族の参加もあり、日頃から地域の理解と協力を得られるよう働きかけ、協力体制が整っている。		

長崎県 グループホームねむの木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者それぞれの食事摂取量の記録をとり、栄養バランスや水分摂取状況も1日を通じて大まかに把握している。利用者の状況に合わせて、それぞれに栄養や水分が確保できるよう工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が集まる食堂や居間は、落ち着いた雰囲気や家庭的な空間を作り出している。居間には季節の草花や利用者の作品を飾り、ソファやイスを配置し、利用者がそれぞれに自由に過ごせるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は利用者の好みや希望に合わせて、布団、ベッド、家具、仏壇などを自宅から持ち込めるようにしており、その人らしい居室づくりの工夫をしている。仏壇を置いている利用者には、毎日花やご飯をお供えできるように支援している。		